

DATA FILE



名前	CHALCEDONY (カルセドニー) / 玉髄
化学組成	SiO ₂
色	一定しない
光沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断口	貝殻状
硬度	7
比重	2.6

ぎよく ずい

玉髄

CHALCEDONY

キ

石英の超微細結晶が集まって緻密な塊になったものを総称して「玉髄」という。

新潟県の檜山で産出した玉髄。

さまざまな色や模様のものが存在し、特徴によって多くの呼称を持つ。

ガラスに似た光沢や脂肪のような光沢を持つ。

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。



ミネラルファイル

ケイ酸塩鉱物

シリカの緻密な塊

玉髄とは石英の一種で、肉眼では確認できないほど微細な石英の結晶が緻密な塊になったものをいう。薄い結晶は半透明だが厚いものは不透明で、溶岩の空洞中などでシリカを大量に含む溶液が固まってできるほか、貝殻やサンゴ、木、骨などの有機物を置換してできることもある。比較的硬い鉱物で、ガラスなどに簡単に傷をつけられるほど丈夫だが、多孔質であるため脂肪や酸が内部に入り込むと変色する場合があるので取り扱いには注意が必要だ。

キ 玉 髄



▲白色とオレンジ色、赤色の模様を示す玉髄。
ブラジル産。

▶円心円状に連続する縞模様を示す典型的なめのう。
ブラジル産。



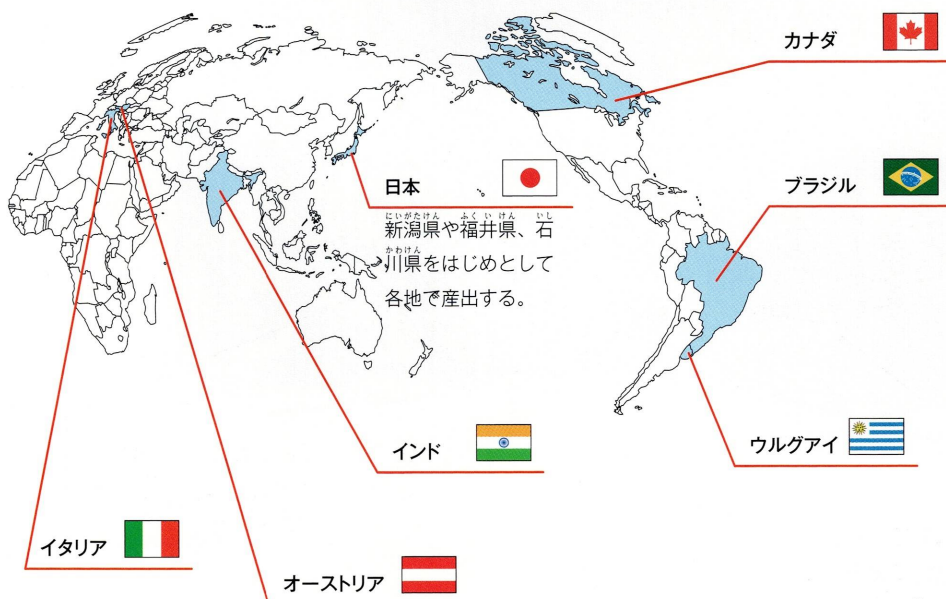
◀イタリアのボルツァノで見つかっためのうの塊。

多彩な色と模様

玉髄にはさまざまな種類があり、色や模様によって呼び分けられている。玉髄のなかでも特に緻密な不透明の塊で赤色や黄色、緑色、黒色であられるものは「碧玉」、緑色の中に赤い斑点が入っているものは「血石」、縞模様になったものは「めのう」、酸化鉄を含むため褐色を帯びた色合いになったものは「紅玉髄」、さらに褐色が強くなり茶色に近くなったものは「サード」、めのうのなかで特に縞模様のはっきりしているものは「縞めのう」と呼ばれる。そのほかにも多くの呼称があり、色によって単純に「ピンクカルセドニー」や「ブルーカルセドニー」などとも言われる。

緑色の「緑玉髄」は玉髄のなかで最も価値が高いとされ、ガラスに色をつけたイミテーションも多くつくられている。また、蛇紋石のなかには見た目が緑玉髄によく似たものがあるが、蛇紋石のほうがやわらかいことから区別できる。

主な産地



▶オーストリア産のブルーカルセドニー。